

令和元年度 土砂災害防止功労者表彰者 一覧

【個人】

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
東京都	鈴木 雅一 (東京大学名誉教授)	(2)二次災害防止に関する活動 (4)警戒避難態勢の整備 (7)研究、発明	<ul style="list-style-type: none"> ●砂防学及び森林水文学に多数の研究業績を発表されてこられた。 ●特に、土砂災害発生に関する降雨指標の研究の草分け的な存在であり、タンクモデルや、実効雨量を用いた土砂災害発生の危険雨量や、がけ崩れ発生と降雨の関係に関する研究は、発表後30年以上経過した現在でも研究論文に多数引用されている。 ●また、地震後の崩壊発生に関する降雨基準設定手法についても研究をされ、その成果は土砂災害被災地における二次災害防止のための基準雨量の引き下げの考え方に活用されている。 ●このほか、平成25年10月に発生した伊豆大島での土砂災害において、東京都が設置した「伊豆大島土砂災害対策検討委員会」などの委員長を務め、多くの検討成果をとりまとめ技術的な提言を行うなど数多くの砂防行政に貢献している。

【団体】

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
北海道	上富良野町	(3)土砂災害防止思想の普及	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和63年から平成元年まで続いた十勝岳の火山噴火を契機に、砂防施設等の見学を学習に組み込み、小学校行事として「親子の火山砂防見学会」を永年にわたり実施している。 ●同見学会では、当時小学生として参加した親が再び我が子と参加するなど、火山災害に対する地域の防災意識を維持向上している点で多大な貢献をしている。
神奈川県	神奈川県砂防ボランティア協会	(6)土砂災害施設等の点検等 (8)その他顕著な功績	<ul style="list-style-type: none"> ●永年にわたり、毎年6月の土砂災害防止月間中に土砂災害危険箇所の点検・パトロールを行ったほか、県内で土砂災害が発生した際の緊急点検や技術支援を実施するなど、土砂災害の防止に尽力している。 ●また、建設業労働災害防止協会が発行するマニュアルにおいて、特に重要となる斜面崩壊の危険性の判別する手法について、斜面点検の現場での豊富な経験を有する当協会が主に執筆し、全国で開催される講習会等において活用されるなど、斜面工事の現場の安全確保に大きく貢献している。
京都府	京丹波町消防団和知支団第2分団	(1)地域住民の生命又は身体の保護	<ul style="list-style-type: none"> ●京都府船井郡京丹波町では、平成30年7月豪雨により、総雨量が346mmを記録し、土砂崩れや川の氾濫により、住宅の大規模半壊、床上床下浸水などの被害が発生した。 ●7月5日の大雨警報発令後から管内の危険箇所を定期的に巡回監視(2時間ごと)を行った。 ●7月7日の巡回監視では、早朝であったにもかかわらず危険を察知し、避難勧告発令前に住民に避難を促した。そして、避難の最中、土砂崩れにより避難経路が不通となり、孤立し危険が迫る中、次善の策として安全な場所を選定し、一次的な避難を誘導したほか、土砂や流木で通行不能な道路を切り拓き、避難所まで無事に誘導し、地域住民の安全確保に尽力した。
兵庫県	特定非営利活動法人兵庫県砂防ボランティア協会	(2)二次災害防止 (6)土砂災害施設等の点検等	<ul style="list-style-type: none"> ●永年にわたり、防災パトロールとして土砂災害防止施設や危険箇所の点検を実施するとともに、土砂災害発生後の二次被害の危険性や応急対策の必要性の調査も行っている。 ●特に、平成30年7月豪雨災害では、土砂災害発生箇所等の調査を実施し、二次被害の可能性などを確認した。この調査結果によって災害発生箇所の全容が把握でき、応急対策の策定などを適切に行うことができ、その後に市が開催した説明会にも協力し、現地の状況や今後の降雨に対する避難の判断を住民に説明するなど地域の安全確保に大きく貢献した。
広島県	新建自治会	(8)その他顕著な功績	<ul style="list-style-type: none"> ●平成26年の土砂災害を踏まえ、地域に雨量計を設置し、また「防災メールシステム」や「安否確認システム」を自治会独自に開発するなど、地域の実情に合わせた防災対策を積極的に行っている。そして、全国の他の地域からも活動内容について問い合わせがあるなど、全国の先進的な取り組みになっている。 ●また、システムを使った防災訓練や勉強会を開催し、システムの普及を図るとともに、機能の充実やシステムの拡充を図り、実用的なものになる取組も続けており、地域の防災力向上に尽力している。

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
愛媛県	高浜地区自主防災連合会	(1)地域住民の生命又は身体の保護 (2)被災者支援活動	<ul style="list-style-type: none"> ●高浜地区は、平成30年7月豪雨災害で松山市の中でも特に被害が大きかったにも関わらず、当地区自主防災連合会の対応が功を奏し、人的被害を出すことなく住民の命を守った。 ●7月6日17時頃から、連合会が事前に作成した防災マップをもとに危険箇所の巡回を行い、土砂災害の危険のある区域の住民を戸別訪問し、避難を促し、地域住民の安全確保に尽力した。 ●また、当連合会は町内放送を利用し、早め早めの避難を住民に促した。さらに、指定避難所のほか、公民館分館や漁協施設に自主避難所を開設し、避難者の受入体制を整え、避難勧告発令後も市職員や施設関係者と連携して防災資機材の搬送を行うなど避難所の運営を積極的に行うなど、被災者の支援活動に貢献した。
愛媛県	宇和島市消防団	(1)地域住民の生命又は身体の保護 (2)二次災害防止及び被災者支援活動	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年7月豪雨災害において甚大な被害を受けた吉田地区において、災害直後から自衛隊、警察等と連携し、行方不明者の捜索、救助活動を3日間行った。 ●同地区の隣に位置する三間地区において、発災当初、二次災害の発生の危険がある中、土砂崩れにより倒壊した家屋の中で、下敷きとなった要救助者(2名)を消防庁からの貸与資機材を活用し救助を行い、地域住民の保護に尽力した。 ●また、地域住民の生活を取り戻すため、発災から40日余にわたり、道路や水路内の土砂、がれきの撤去を昼夜問わず実施し、二次災害防止などに貢献した。
近畿地方整備局	那智勝浦町教育委員会	(3)土砂災害防止思想の普及	<ul style="list-style-type: none"> ●永年にわたり、外部有識者を講師とした防災講習会、児童・生徒・一般住民対象とした防災学習会を開催している。平成23年紀伊半島大水害以降、町内の各小中学校において土砂災害防止の取組を強化し、学校を通じた地域住民の防災意識の啓発を推進してきた。 ●さらに、平成23年の災害以降、災害対応の貴重な経験等をとりまとめた記録誌、啓発映像(大人向け、子供向け)を制作し、町内で開催されるイベントでの公開・上映、防災学習などに毎年活用するほか、和歌山県が設置した土砂災害啓発センターでは、これらの資料を活用し地域住民や県内外の児童・生徒の防災学習、観光客への災害実態の普及啓発などを行い、土砂災害防止思想の普及に貢献している。
九州地方整備局	南島原市立大野木場小学校	(3)土砂災害防止思想の普及	<ul style="list-style-type: none"> ●雲仙・普賢岳の火山噴火災害の記憶を後世に引き継ぐこと、砂防事業の重要性や防災に対する意識を高める機会とするため、旧校舎が火砕流により焼失した9月15日を「メモリアルデー」とし、様々な取り組みを永年にわたり実施している。 ●このメモリアルデーでは、保護者、地域住民及び関係者を招待し、小学5年生による災害学習の成果発表、災害体験者による講話、大火砕流により焼けたイチョウの木が翌年芽吹いたことから作られた「生きていたんだね」を全校生徒で合唱するなどのプログラムにより、噴火災害の伝承や土砂災害防止思想の普及に貢献している。

※表彰式は令和元年6月6日(木)に神奈川県横須賀市で開催する土砂災害防止「全国の集い」で実施します。